

研修 だより

糸島市立一貴山小学校
平成27年9月25日（金）
学力アップ部

2年1組の子どもたち、中山先生ありがとうございました！！

【単元名】「たし算とひき算のひっ算（2）」

【本時の目標】

- ① 進んで計算棒を操作したり、既習の学習内容をいかして進んで取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
- ② 計算棒を操作することを通して、2回の繰り下がりの方を考えることができる。【数学的な考え方】
- ③（百何十何）－2位数の筆算で、一の位から順に計算し、答えを求めることができる。【技能】
- ④（百何十何）－2位数の筆算の仕方が理解できる。【知識・理解】

【本時の主張】

① 言語活動の設定の工夫

自分が考えた方法をペア交流することで、どの子にも考えを表現したり人の考えを聞いたりして、じっくりと考える場を設定する。

② 思考力・表現力

計算棒の操作活動とたしかめを一貫して取り入れることで、筆算の意味理解ができると考える。また、自分で操作することで計算問題を正確に解く力を伸ばすことができると考える。

【本時の展開】 9月8日（火）第5校時 ふれあい2教室

1、既習の振り返り。

$$\begin{array}{r} 10 \\ \cancel{1}39 \\ - 83 \\ \hline 56 \end{array}$$

①一のくらは $9 - 3 = 6$

②十のくらは $3 - 8$ はできないので

百のくから1くり下げて13

$$13 - 8 = 5$$

③こたえ 56

（1）本時の学習のめあてをつかむ。

○問題から、本時では繰り下がりが2回の答えを求めることを把握する。

めあて 一のくも十のくもひけないひっ算のしかたをせつめいしよう。



2、見通しをもとに、自分の考えをまとめる。

（1）どのような方法で考えていけばよいか考る。

①計算棒、②筆算、③言葉をつかって

（2）繰り下がり気をつけながら、 $142 - 83$ の計算の仕方を考る。

$$\begin{array}{r} 10 \\ 310 \\ \cancel{1}42 \\ - 83 \\ \hline 59 \end{array}$$

① 一のくらは $2 - 3$ はできないので

十のくから1くり下げて 12

$$12 - 3 = 9$$

②十のくらは $3 - 8$ はできないので

百のくから1くり下げて 13

$$13 - 8 = 5$$

③こたえは 59



3、本時のまとめを行い、ふりかえりを書く。

まとめ 一の位がひけない時は十の位から1くり下げて、十の位がひけない時は百の位から1くり下げて計算する。

(中山先生の自評)

目標①について

計算棒を使うことで意欲的に活動できた。

目標②について

既習を活用させたかったが、少し時間がかかった。全員を同じ位置にという程度でよかった。

目標③・④について

言葉の説明をさせるための手立てがもっと必要であった。



【協議会で話し合ったこと】

【協議会より】

- 時間配分に注意した方がよい。前時の振り返りは5分程度がよい。
- 2-3はできないので、これを説明させるための手立てが必要であったのではないか。
- 問題の出し方を工夫すると子どもたちが意欲的になる。より生活と結び付け、生活を感じさせる問題にする（お金をつかう等）
- 自力解決の時間を長くしたほうがよかった。
- 子どもが説明をする時間が必要であった。そのためには、モデルとなる文を提示する必要がある。
- 筆算の時の子どもの繰り下りの数字の統一をさせたい。
- 学習プリントも板書のようにすることで、より構造的になるし、子どもの思考も流れたのではないかと思います。



教頭先生よりご指導・ご助言

- ・授業の流れは、見通し→めあての順番で（内容・方法をめあてに入れること）
- ・前の学習の振り返りは、シンプルに確認を。全員が「ここまでは分かっている」というフィールドに乗せる感じで
- ・前の問題との違うところに目をつけさせること
- ・自力解決の時間をしっかり確保すること。本時のめあては「説明しよう」なので、説明するために、計算棒を使う児童もいれば、筆算からする児童がいてもよい。
- ・操作活動で子どもを鍛えていく。EX ドット図で50をつくる。30を引く
- ・子どもが説明する時は「まず」「次に」という言葉を使わせる。

中山先生お疲れさまでした☆

授業を作る段階から、緻密な計画と何度も本時のことを考えられていました。私がすごいと思ったことは見取りをしっかりとされていることです。一人ひとりに○をつけたり、支援をされたりされていました。2学期のキーワードである「見取り」を丁寧に行い、中山先生のように温かく子どもたちを見つめて、認めて、褒めて伸ばしていきたいと思います。ありがとうございました。